

市内の子どもの居場所利用者との意見交換について

1 市内の居場所事業の子どもたちとの意見交換

日 時	令和3年12月17日（金）16:00～17:30
参 加 者	高校生2名 市職員3名
主な内容	<ul style="list-style-type: none">・相性の良い友だちを見つける場はいくつあっても良い。・学校に行くことがゴールになっていた適応指導教室は合わなかった。いろいろな居場所があって、自分にあった場を選択できると良い。・プレーパークには友だちに誘われてきた。ひとりでは初めての場所に行くのは気が引けてしまう。・不登校の子しか来ないチャレンジルームなどはそれ以外の子との交流があまりない。・アレルギーと同じように、偏食でも弁当を持参できると良い。食の好みは尊重してほしい。・子どもがやりたいことには意味があるので、常識の範囲内でできることは尊重してほしい。・こうでないといけないというのがなく、生きやすい雰囲気であってほしい。

2 市内の学習支援事業の子どもたちとの意見交換

日 時	令和3年12月22日（水）15:30～17:00
参 加 者	女子は、高校3年生、中学3年生、小学6年生の計3人、 男子は、中学3年生が2人、小学6年生が1人の計3人 合計6人 学習室の大人3名、喜多委員長、阿部委員、市職員2名
主な内容	<p>〈不登校になった理由や学校についてなど〉</p> <ul style="list-style-type: none">・教員からの言葉や対応に傷ついたりすることがあった。・不登校の後、登校した際の教員のフォローが足りなかった。・チャレンジルームに行ったときは、学校に戻ることを強いられている感じがしてつらかった。・学校全体に余裕がないのではないかと、先生のメンタルケアが必要なのではないかと感じる。 <p>〈相談について〉</p> <ul style="list-style-type: none">・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどに、相談を聞いてあげようと「かまえられる」と話せなくなる。保健室の先生や居場所のスタッフなど、友たち感覚で話せる人がいい。 <p>〈子ども権利条約パンフレットを読んで〉</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの権利を配慮するような事例について、児相に一時保護された際など、子ども側の意思、気持ちを全く無視された経験がある。